

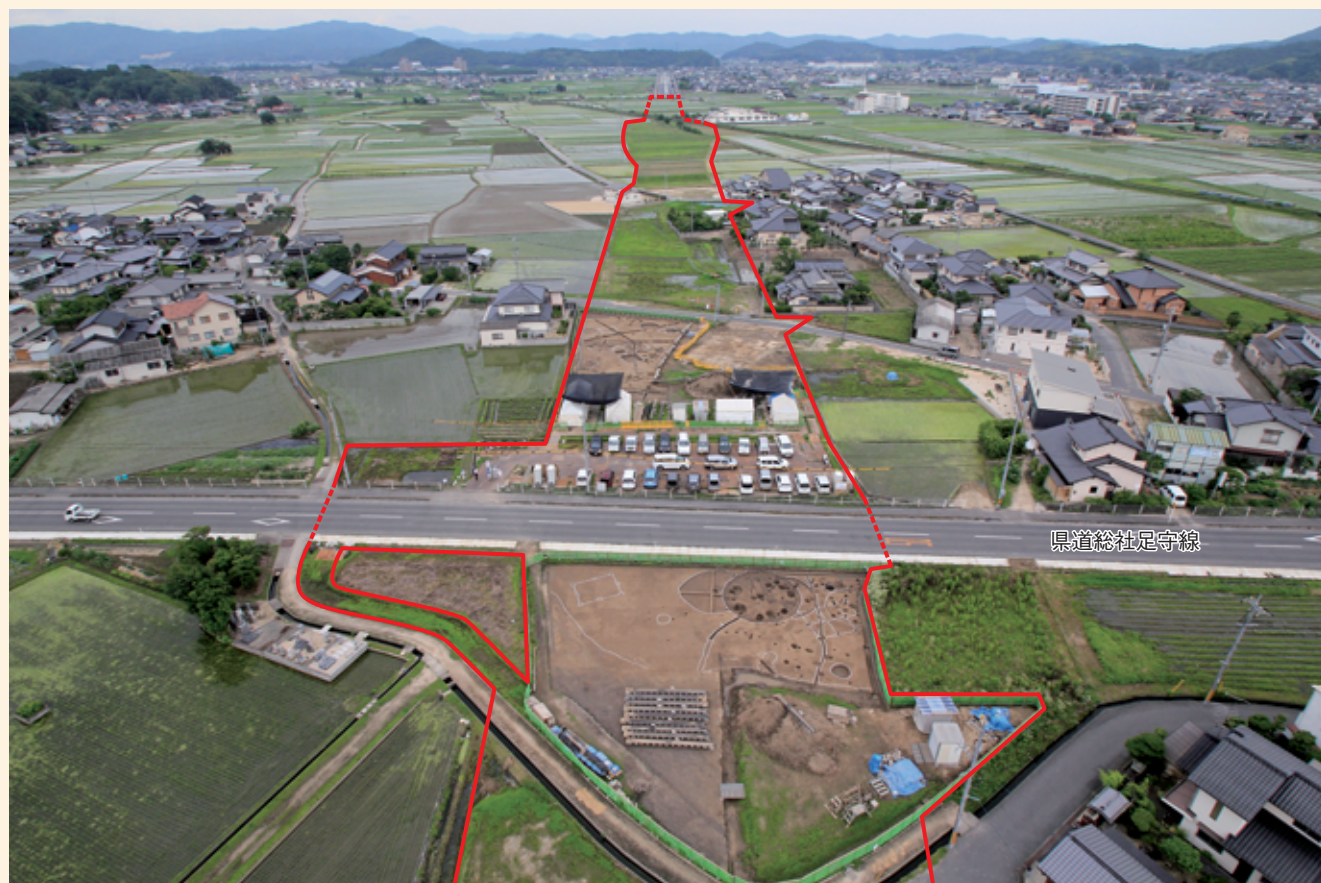
国道180号改築に伴う発掘調査再開！

おしかべ
刑部遺跡

総社市刑部

岡山県古代吉備文化財センターでは、一般国道180号（総社・一宮バイパス、以下「180号バイパス」）改築工事に先立つ発掘調査を今年度から再開しました。これまでの180号バイパス建設に伴う発掘調査では、弥生時代から中近世にかけての集落（南溝手遺跡・窪木遺跡など）や戦国武将の居館（総社遺跡）などを調査し、貴重な成果をあげてきました。今回の調査対象は、それらの遺跡よりさらに西側に位置しますが、今までこの地域ではあまり発掘調査が実施されていないことから、この地域の歴史像の解明に期待がかかります。

最初に着手したのは刑部遺跡です。刑部遺跡は今まで知られていませんでしたが、平成23年に行われた試掘調査で新たに発見されました。遺跡は総社市街地の北部に広がる平野部にあり、4月からの調査で、県道総社足守線に隣接する部分を中心に、弥生時代から古墳時代にかけての集落跡を発見しました。本号では、これまでに分かった成果を紹介したいと思います。



刑部遺跡と180号バイパス計画路線（西から）

刑部遺跡に人々が暮らし始めたのは弥生時代中期と考えられ、発掘調査により当時の人々の住居跡（竪穴住居2軒）などが見つっています。

弥生時代後期になると竪穴住居などの遺構や遺物も増えてくることから、集落の規模は大きくなっていったようです。7月までの調査で、弥生時代後期の竪穴住居11軒、掘立柱建物3棟などが見つかりました。その中で直径8m以上を測る円形の竪穴住居（写真上）は、今回調査した住居の中では最大規模となります。柱を据えた穴には掘り直しの痕跡が見られ、最初は7本柱であったのが、改修により8本柱になったことが分かりました。この住居が建て替えて、長い間利用



円形の竪穴住居（弥生時代後期）

された様子がうかがえます。住居内からは丁寧につくられた土器やガラス製小玉などの装飾品が出土しました。住居の規模や出土遺物から、このムラの有力者が居住していたことが推測できます。

古墳時代においても引き続き集落が営まれました。弥生時代の竪穴住居の平面は円形をしていますが、古墳時代になると方形に変わっていきます。竪穴住居には、後世の削平をうけ残存状態がよくないものもありましたが、中には深さが50cmもある非常に残りのよい住居もありました（写真左下）。この竪穴住居は、古墳時代前期から中期にかけてのものと考えられ、高杯やこの時代によく見られる底の丸い小型の壺が多く出土しました。また、鉄製品（鎌、刀子など）も出土しました。特に鎌は先がくちばしのように折れ曲がっており、朝鮮半島にルーツが求められます。当時としては最新の道具で、刑部遺跡の性格を物語る貴重な遺物といえます。

このように、今までよく分かっていなかったこの地域の歴史が少しずつ明らかになってきました。これらの成果は、6月13日に開催した現地公開でも公開し、当日は120名の方々に発掘現場を見ていただきました。当センターでは、引き続き調査成果について、現地説明会やホームページなどで随時公開したいと思っておりますので、今後の調査にご期待ください。

（金田善敬）



方形の竪穴住居（古墳時代）



現地公開（6月13日開催）

弥生集落と古墳群の調査

かじやざこ 鍛冶屋辻A古墳群ほか

美作市中尾

今年度も引き続き、美作岡山道路が中国自動車道に接続する勝央ジャンクション建設予定地の調査を行いました。鍛冶屋辻A古墳群は、前号で紹介した鍛冶屋辻B古墳群の南側で、中国道を挟んだ丘陵上にあります。西斜面で弥生時代中期の集落、尾根筋で古墳時代前期と中期の古墳を調査しました。

弥生集落では、円形の竪穴住居1軒と方形の竪穴住居3軒、段状遺構などが連なって見つかりました。このうち、直径6.5mを測る円形の竪穴住居は、ドーナツ状の焼土と放射状の炭化材が残るいわゆる焼失住居でした。柱穴や壁体溝などは重複があり、建て替えがあったと思われます。方形の竪穴住居は最大のもので1辺4mほど、柱穴は見つからず、焼土面と土器が残されていました。美作地方の他の調査例から考えると、1つの集団が弥生時代中期の短期間に居住した集落のようです。

古墳群は、調査前に2基の古墳を確認していましたが、今回の調査で新たに4基の古墳が見つかり、方墳1基、円墳5基の合計6基となりました。最も古い1基は、古墳時代前期にさかのぼる直径11mの円墳で、副葬品はありませんが周溝から土師器が出土しました。その他は古墳時代中期に築かれた直径あるいは1辺が10mほどの古墳で、木棺直葬の主体部には鉄剣や鉄鏃が副葬されていました。また、周溝から須恵器と土師器を集めた供献土器や、鋤先などの鉄器が見つかりました。これらのことから鍛冶屋辻A古墳群は、B古墳群に先行する前期から中期にかけて築造された古墳群であることが分かりました。

(氏平昭則)



弥生時代中期の焼失住居



古墳時代前期の円墳



古墳時代中期の古墳群



周溝内で見つかった供献土器

センターと津島遺跡の見学

4月から6月にかけて岡山・玉野・倉敷市内を中心に合計23校の小・中学生1,860名が、センターや津島遺跡の見学に訪れました。真剣に説明を聞いてメモをとる姿が見受けられました。

古代吉備文化財センターの見学



展示室



実測室



復元室

津島遺跡（津島やよい広場）と遺跡 & スポーツミュージアムの見学



復元された竪穴住居



復元された弥生時代の水田



ミュージアム

第1回やよい体験教室～草木染めに挑戦！～

7月27日（土）古代吉備文化財センターにおいて、第1回やよい体験教室「草木染めに挑戦！」を開催しました。当日は小学1～6年生の児童とその保護者22名が参加されました。

草木染めに挑戦をする前に、まず弥生時代の布についてお話を聞いていただきました。その後、草木染めの方法について説明を受け、いざ挑戦。最初のハンカチに模様をつける「絞り」の工程で少し苦戦しましたが、その後の工程はスムーズに進行しました。最後に自分でつけた「絞り」を外すと、皆さん「わあ、きれい！」「かわいくできた」など、口々に感想を述べておられました。

夏休みの思い出と笑顔と一緒に、世界に1つだけのハンカチをお土産にいただきました。



弥生の布について勉強中



草木染めに挑戦！



オリジナルハンカチの完成

夏休み企画☆ドキドキ発掘体験！

8月3・4日（土・日）に1・2ページで紹介した刑部遺跡において、「夏休み企画☆ドキドキ発掘体験！」を実施しました。両日合わせて33名の小学5・6年生とその保護者が参加しました。はじめに刑部遺跡と出土品について説明を聞いた後、いよいよ発掘体験です。弥生時代から古墳時代の溝や竪穴住居の中からたくさんの土器片を掘り出しました。めずらしい石の矢じりを発見した家族もおられました。土器洗い体験では、掘り出されたばかりの土が付いた土器を水洗いしました。傷を付けないようにやさしくブラシでこすって土を落とすと模様が見つかることもありました。発掘体験を通して、大むかしの遺跡を身近に感じてくれたでしょうか。夏休みの楽しい思い出になってくれるといいな。



なにができるかな？



土器洗いの様子

夏休み企画第2弾☆ワクワク体験－土器にふれよう！

8月27日（火）から29日（木）の3日間、津島遺跡ボランティアの皆さんと協力して、岡山県生涯学習センター交流棟1階で「夏休み企画第2弾☆ワクワク体験－土器にふれよう！」を開催しました。県内の発掘調査で出土したさまざまな土器に触りながら、また遺跡地図を使って遺跡を調べることで岡山の歴史を身近に感じていただこうという企画でした。他にもいろいろな時代の焼物や「弥生人の食事」に関する展示、発掘調査を行ったことがある生涯学習センター近くの津島遺跡や伊福定国前遺跡の紹介などを行いました。

565名の方に訪れていただき、少しでも岡山の歴史を感じ、また身近に遺跡があることを知っていただけた3日間となりました。



展示・土器復元コーナー



遺跡調べコーナー

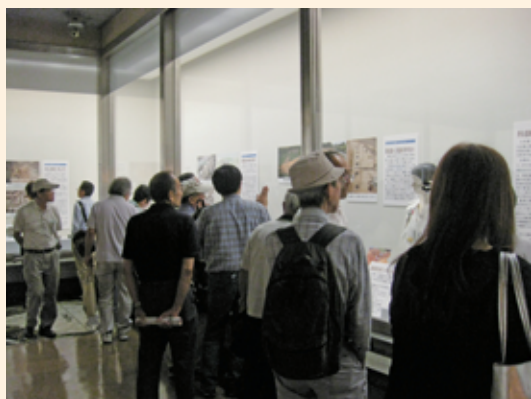
大地からの便り2013 ―県内の発掘調査報告会

9月7日（土）に県立博物館において開催し、例年より多くの遺跡について報告が行われました。約110名を数えた参加者の皆さんは、最新の発掘調査成果を熱心に聞き、メモをとる姿も見られました。

また報告展として9月5日（木）から10月6日（日）までの期間、報告遺跡から出土した遺物の展示を県立博物館で行いました。



報告会の様子



報告展の様子

< 報告・展示の遺跡 >

① 辺谷・成ル遺跡（赤磐市）	県古代吉備文化財センター
② 黒岩遺跡（津山市）	津山市教育委員会
③ 狩谷遺跡（総社市）	総社市教育委員会
④ 鍵谷遺跡・上相遺跡（美作市ほか）	県古代吉備文化財センター
⑤ 備前国分寺跡（赤磐市）	赤磐市教育委員会
⑥ 津山城跡（津山市）	津山市教育委員会
⑦ 岡山後楽園御舟入跡（岡山市）	県古代吉備文化財センター

展示室から ―平成25年度の企画展示―

センターの展示室では、年3回の企画展を予定しています。今年度は、企画展1で美作国建国1300年記念事業の一環として「美作国の道と交流」を開催しました。企画展2は「紡織^{ぼうしよく}の考古学―糸を紡ぎ 布を織る―」と題して、弥生時代から古墳時代にかけての布に焦点を当てた展示を現在行っています。企画展3では最近刊行された報告書を取り上げて展示をする予定にしています。ぜひ、お越しください。



企画展2の様子

企画展1 「美作国の道と交流」

展示期間 4月23日（火）～8月18日（日）

展示品 須恵器・土師器・焼塩土器・瓦・鉄鉱石・鉄滓^{てっさい}

企画展2 「紡織の考古学―糸を紡ぎ 布を織る―」

展示期間 8月20日（火）～12月25日（水）

展示品 紡錘車・木製品・鏡・鉄製品など

企画展3 「最近刊行された発掘調査報告書から」（仮）

展示期間 1月7日（火）～4月20日（日）

展示品 土師器・須恵器・金属製品ほか

最近刊行された報告書（平成25年1・3月発行分）

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」236『史跡 鬼城山2』（総社市）

7世紀に築造されたと考えられる古代山城、鬼城山（鬼ノ城）。土器溜まりから須恵器・土師器がまとまって出土。山岳寺院・鍛冶工房・堰堤（土手状遺構）等、城内利用の変遷が明らかとなった。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」237『宮原遺跡・奈良井古墳・奈良井遺跡』（浅口市）

宮原遺跡では縄文時代後期の河道を確認。奈良井古墳は横穴式石室をもつ。奈良井遺跡では7世紀代の須恵器片が多数出土し、焼け歪みや溶着した破片から付近に窯跡の存在が推測される。

「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」238『特別名勝 岡山後楽園・史跡 岡山城跡』（岡山市）

岡山後楽園は江戸時代に築庭された大名庭園である。岡山藩主専用の舟着き場、御舟入跡において、護岸石垣・雁木・通路等の構造が明らかとなった。大名庭園の玄関口にふさわしい格式を備えている。

センター収蔵品紹介 VOL.14 一倉敷市 ^{あつはしりで}阿津走出遺跡出土の土製品一

焦げ茶色をして丸みをおびた長方形の土製品は、縄文時代の終わり頃（後～晩期）に使われていたものです。

長さ85mm、幅42mm、厚さ20mmの断面楕円形で、一部欠けていますが重さは約80gあります。外面には直径2mmほどの丸い棒を使って線を引ながら棒を押しつけて文様を描いています。片面は蝶のような形で、もう片面は中心線を挟んで「コ」の字を組み合わせた文様です。

この土製品は、形と文様が東北地方の縄文遺跡を中心に出土する板状の土版^{どばん}に似ていますが、棒状で長軸方向に紐を通す直径5mmの穴が貫通しているところが異なります。「コ」の字状組み合わせ文様はかなりすり減っていることから想像すると、こちらが体に接する裏面で、日常的に身に付ける装身具^{たれかざり}（垂飾）と考えてよさそうです。

縄文時代の装身具は、岡山県内の沿岸部をはじめとして、西日本の縄文遺跡でも広く出土します。その種類は多様で、漆を塗った木製の櫛、ヒスイや滑石などの石製の玉類・耳飾り、貝製（イモガイ・イタボガキなど）の腕輪・垂飾、動物（シカ・イノシシ・エイ・サメなど）の骨・角・歯・牙製の垂飾・腰飾りなどがあります。土製品でも、耳飾りや土器の文様部分の破片を加工した垂飾などが出土しています。しかし、阿津走出遺跡のように、初めから垂飾として作られたものは西日本では珍しくほとんど例がありません。

阿津走出遺跡で暮らしていた人たちは、ほかの地域の縄文人以上にとてもおしゃれな装いをしていたのかもしれません。（杉山一雄）



表



裏

